

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・**最終**)

昭和中学校区 校番25 学校名 昭和中小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	・基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的に学習に取り組む児童を育成する。	○基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○主体的に学習に取り組む児童を育成する。	・学期末テストで80%を上回った児童は、国語科、算数科共に目標値を達成することができなかった。しかし、国語科は上半期よりも6ポイント上回った。「知識・技能」の領域は、全学年が向上した。算数科は上半期と同じ結果となった。全学年が「はげみタイム」や週末の家庭学習に、「Qubena(キュービナ)」のワークブックを配信したり、授業においても取り組ませたりしたことで成果を上げたと思う。学年相互で個々の児童の進捗状況を把握しながら取り組んだことで、学年間の差の開きも改善してきている。 ・全学年において算数科の「思考力・判断力・表現力」の領域に課題が見られた。問題文の意味を把握できていなかったり、自分の考えを説明したりすることが難しい児童が半数近くいる。 ・2学期は授業の導入の工夫を意識し、児童が意欲をもてるようなめあてを設定するよう授業において取り組んだことが成果につながったと考える。冬休みの校内研修で実践交流の場をもち、3学期の授業づくりにつなげていくことができた。もっと回数を増やしていきたい。 ・児童アンケートの個々の数値と教師の見取りにずれがある。	・「はげみタイム」や家庭学習、授業等で毎日タブレットドリル「キュービナ」に取り組むとともに、児童が既習事項を活用して考え表現する力を高める授業改善を図る。 ・今後もICTを効果的に活用し、個を大切にしたい支援の充実を図る。 ・児童が主体的に課題解決に取り組み、学びの高まりが感じられるような授業づくりに全職員が協働しながら取り組む。
**	・児童の自己指導能力を育成する。	○社会性の涵養と自己有用感を養う。 ○夢や目標をもち、それに向かって努力する児童を育成する。	・WebQUのアンケートを基に、校内研修では集団における児童一人一人の実態を把握し、教職員で情報共有をしたことで、学級集団や個々の児童への関わり方や指導に役立てることができた。 ・生徒指導連絡会を計画的に位置付け、解決志向シートを活用して学年間で気になる児童への関わり方を話し合い、連携して取り組んだことで、児童が少しずつ落ち着いてきている。 ・笑顔貯金を常設し、帰りの会で他者と認め合う場をもった学級は、肯定的な声掛けが増え、学級が温かい雰囲気になっていた。しかし、全学級に浸透しておらず、継続が難しい学級もあった。	・WebQUのアンケート結果を基に手立てを協議し、指導に生かす。 ・今後も解決志向シートを活用し、支援の具体について情報を共有し、児童の思いに寄り添いながら安心して学校生活を送ることができるよう支援を図っていく。 ・いじめ撲滅月間には、笑顔貯金の取組について交流し情報共有の場をもつことで、全学級の取組を広げていく。
*	・健康安全・防災・体力づくりへの意欲を高める。	○「自分の命は自分で守る力」を育成する。 ○基本的な生活習慣の徹底を図る。 ○体力・運動能力の向上を図る。	・ほとんどの児童が避難場所や避難経路について理解をしているが、全員ではなかった。また、理解はしているが実際に歩いて確かめていない児童もいることが分かった。 ・目標値は達成しなかったが、上半期よりも20%上回った。特に「にこにこチャレンジ」についての啓発や指導をタブレットで配信して行ったことで、5・6年生の全クラスで80%を達成することができた。 ・体育の授業の始め「サーキットメニュー」や家庭でもできる「北っ子エクササイズ」に取り組んでいたことで、徐々に習慣化されつつある。しかし、記録の向上にはまだ結び付いていない。特に反復横跳びに課題が見られる学年が多い。 ・教職員に向けて実技研修を行ったり体育通信を発行したりと指導法を広めていったが、学級により取組に差がある。	・避難訓練を自分事として考え行動できるように想定場面を工夫して実施する。 ・土砂災害携帯マニュアルを避難訓練の学習においても活用し、自分の命は自分で守れるようにする。 ・今後も教科横断的な防災教育を推進していくとともに、地域の方や関係機関と連携しながら全校で防災について計画的に取り組む。(北小防災フェスティバル) ・3学期に改善した「にこにこチャレンジ」を来年度も継続して取り組む。(チャレンジ宣言、メディア以外の時間の使い方など)教師も目標時刻等の設定や振り返りを確認し、声掛けをしていく。 ・家庭でもできる「北っ子エクササイズ」を今後も習慣化させるとともに、新体力テストの課題に対応した補助運動等を工夫して取り入れていく。 ・今後も体育科の授業力向上を図っていくために、教職員の困り感を把握しながら、理論や実技の研修を行う。 ・次年度に向けてサーキットメニューを簡略化し、毎時間継続して取り組めるようにする。
業務改善	・持続可能な教育環境の整備	○長時間勤務の削減 ○児童と向き合う時間の確保	・時間外勤務が平均月45時間を超えない教職員の目標値は平均85%で達成できなかったが、前回より4ポイント上回った。特に12月においては全員が達成することができた。今年度日課時程表を改訂し、始業時刻を8:10、6校時終了時の下校時刻を15:00としたことで研修や学級事務等の時間を確保できるようになった。また、教職員のタイムマネジメントに対する意識も高まり、見通しをもち計画的且つ協働的に業務を行う風土ができてきた。 ・日々の業務の中で充実感を得られていると感じる教職員の肯定的評価は上半期と同様で目標値を上回った。児童と向き合う時間が確保されたことで、児童の成長や意欲を感じたとともに、学力の向上につながったという教職員の意見も見られた。管理職が働き方改革を進めていることを評価する意見も見られた。	・今後も定時退校時刻を全職員が意識して守るとともに、見通しや優先順位を決めるなどタイムマネジメントができる働き方を推進させる。 ・校務組織の見直しを図り、主任を中心とし、各分掌、各学年で協働して授業や校務等に取り組む体制を作る。 ・児童と向き合う時間を確保できるように、今後も教職員の意見に耳を傾けながら会議や行事、日程等を精選していく。 ・外部人材を活用し、教育活動の充実を図るとともに、教職員の働き方改革を推進させる。